

# 防府市まち・ひと・しごと創生推進専門会議 議事録等

## ■開催日時・場所

平成29年5月30日（火）午前10時00分から正午まで  
防府市役所1号館3階南北会議室

## ■次第

1. 開 会
2. 議 事

（1）総合戦略に係る平成28年度の取組及び平成29年度関係予算について

5. 閉 会

## ■配布資料

	資料名	番号
1.	総合戦略に係る平成28年度の取組について	【資料1】
2.	防府市における合計特殊出生率と出生数の関係について	【資料1-1】
3.	地方創生関係交付金について	【資料2】
4.	平成29年度総合戦略関係予算	【資料3】

■出席者名簿

敬称略・順不同

	分野	所属団体・役職	名前	出欠
委員	産業	防府商工会議所 専務理事	徳永 雄	出席
		防府市農業委員会 会長	藤井 伸昌	欠席
		一般社団法人防府市観光協会 副会長	鈴木 宏明	欠席
		協和発酵バイオ株式会社 山口事業所 総務部 総務課長	岡崎 正敏	欠席
		西日本旅客鉄道株式会社 防府駅長	岡田 裕哉	欠席
	行政	防府公共職業安定所 所長	柴野 毅	出席
		山口県民局 局長	西田 秀行	出席
	教育	山口大学 大学院技術経営研究科 教授	稲葉 和也	出席
		山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 准教授	倉田 研治	出席
		山口短期大学 児童教育学科 准教授	手島 史子	出席
		山口県立防府商工高等学校 教諭	黒川 康生	出席
	金融	株式会社山口銀行 防府支店長	中野 浩幸	出席
		東山口信用金庫 本店長	守田 誠	出席
	労働	連合山口県央地域協議会 委員	山根 浩二	出席
	言論	山口放送株式会社 ラジオ局長	黒瀬 哲成	出席
	住民	特定非営利活動法人 コミュニティ友志会 代表理事	松永 朋子 (代理)岩本 正博	代理 出席
		防府市PTA連合会 父親母親委員会	細野 美幸	欠席
		防府市自治会連合会 女性理事	石竹 和歌子 (代理)豊田 陽子	代理 出席
	事務局	総合政策部 部長	熊野 博之	
		総合政策部 部次長兼 総合政策課 課長	亀井 幸一	
総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 室長		齊藤 忍		
総合政策部総合政策課 課長補佐		桑田 智史		
総合政策部総合政策課企画係 係長		田中 陽一		
総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 主任		山本 幸志郎		

## ■議事録

### 1. 開 会

---

(事務局から開会を宣言した後、新任委員・事務局紹介)

### 2. 会長あいさつ

---

会 長 | 本日は、平成29年度「防府市まち・ひと・しごと創生推進専門会議」の第1回会議となる。本専門会議の位置づけは、防府市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進にあたり、広く関係者の意見を反映するために設置されているものである。  
本日も皆様には積極的な御意見をいただくよう、よろしくお願いしたい。

### 3. 議事

---

(事務局より資料1、資料1-1、資料2、資料3を一括説明)

会 長 | 国の交付金による事業を含めた平成28年度の取組と平成29年度の関係予算についての説明であったが、これについて御質問や御意見をいただきたい。

A 委 員 | 大道切畑地区でのデマンド型乗合タクシーは、防府市全体に広がっていくような取組か。高齢者の交通事故が増えているので、安全なまちづくりにも繋がる大事な取組だと思う。

事 務 局 | 今年度、公共交通の網形成計画の策定を進めており、本市にふさわしい交通体系を議論していく中で、デマンド型乗合タクシーについても切畑地区での状況を検証しながら、他地域への展開も検討していきたいと考えており、まさに今、実証運行をしているところである。

B 委 員 | 資料を見ると、具体的に市はよく取り組まれていると評価している。そうした中、小学生、中学生のアンケートの結果で、授業の内容がよく分かると答えた割合や、勉強が好きだと答えた割合が低下しているが、どういう理由でということが気になった。

事 務 局 | 正直、分析が難しいというところはある。この調査は小学校では6年生を、中学校では3年生を対象に行っているので、学年で波が出て、上がったたり下がったりすることもあるが、長期的には上向くように頑張っていきたいと考えている。

C 委 員 | 年によって波があるというのはよく分かる。学校や学年でレベルの差が出ないようにするのはとても難しいとは思いますが、保護者の立場からすると、個々に応じて手厚くしてもらえるとありがたいと思って、先生達ともよくお話をさせていただく。

事 務 局 | 教育委員会も出来る限り高いレベルで平準化していくように、先生の方もトレーニン

グしているし、子どもに関しては、様々な経験を積ませたり、学びの場を設けていくということで、毎年努力をしているが、全国学力・学習状況調査の結果が下がったということで胸を痛めているところである。これは、学校サイドだけの話だけではなくて、暗いニュースやネガティブな情報がこの年度、多くあったので、日本全体の社会に関する影響も少しあるのかなという風に考えている。

D 委員 人生でいえば平均寿命は100年を超える時代なわけで、そうすると何が起きるかを、大人は実際に知っているかどうか非常に大切だと思う。学ぶことと働くことが入り乱れていく現代において、学校はこれまでと同じような、学んで、働いて、引退をするというスリーステージの考え方で、子ども達に接しているから、まず、教員が変わらなければ子ども達は絶対に変わらない。今、商工会議所と連携して、民間で大人達、子ども達を育てていく産業人育成スクールの取組を地道に進めている。学校の中だけで、子ども達を教育するというのは限界がある。地域も一緒に交えて子ども達、自分達の人生をクリエイティブしていく事が非常に必要な時代になってきており、産業人育成スクールの中でも取り組んでいきたい。

E 委員 潮彩市場の活性化の説明をお聞きして、前に進んでいるなという感じがした。山口県を中心部にある良い港を背景とした市場なので、集客力のある萩シーマーとに匹敵する、瀬戸内側の道の駅として、潮彩市場が発展できるように、頑張ってください。

次に、資料1の5ページで、UJI ターン相談件数の平成28年度の実績が140件と増えているが、実際に移住してきた世帯数は前年と同じ1世帯しかない。相談件数ではなくて、移住してこられる方を増やすということが目標だと思うので、そのあたり気になるところである。

最後に、富海の取組で、地域おこし協力隊員として東京の染め物職人の方が富海に赴任され、藍染めに携われているとのことだが、例えば、富海という地は、藍の栽培から原材料を作り、飴村先生という巨匠、指導者もおられ、全国から志を持った方が富海に集まってくる可能性はある。そういった方々を優待して作家を集めるということが可能な気がする。また、藍色は地味な色だが、オリンピック、パラリンピックのデザインにも使われており、これから注目を浴びる色だと思うので、そのあたりをアピールしていけば、いい方向にいくのではと感じている。

事務局 潮彩市場については、引き続き粛々と、施設改修、中身の売り物の充実、そして県と連携した周辺環境の整備を一体で進めているので、この努力をやめないことが一番大事だろうと思っている。

次に、UJI の関係で、昨年度、東京や大阪で開催された展示会に参加して、ブースを開いたが、問合せの多さに驚いたところである。田舎暮らしの本などが出版されているように、ニーズは非常にあって、相談にこられる方は、防府だけでなく、瀬戸内海の様々なところを見られる中で、140という数字に繋がった。ただし、なかなか注目を浴びないということがあるので、積極的にPRしていくことと、やはり相談者の方に寄り添うことが大切だということで、就職の斡旋、流通不動産の紹介、まち案内をパックにした

UJI の伴走型のシステムというのを作り上げたところである。今年度は、これを武器にして展示会等でPRしながら、実績をあげていきたいと思っている。

最後に、富海については、藍染め事業を推進していくために、昨年獲得したキーマンを中心として今年度設立する一般社団法人に空き家物件を購入させ、藍染め工房と民泊を兼ねた施設を運営させたいと思っている。そこに、大きな甕を設置して、大柄な作品も一社の施設に来れば染められるという様な仕組みにして、販売は一社が一手に引き受けて行うので、企画型の製造小売業が富海に出現するというようなことを考えていきたい。

D 委 員

資料3の総合戦略関係予算で、これについて大局的に見ていくと、家庭がファーストプレイスで、第一の居場所、そして学生であると学校、大人であると職場、これがセカンドプレイスである。このことに関する事業立てというのは細かく作ってあるなど、関心をしている。ただ、今からの人達が長寿化社会を生きるにあっては、家庭でも職場でも学校でもない場所をいかに自分の控えの場所としてつくっていかれるか、サードプレイスが非常に重要視されている。まだこの資料には、盛り込まれていないが、将来的にはそういう取組があるといいなと感じている。例えば、学生の最大の問題点は何かといえば、自分の居場所がないことである。今の時代、子ども達は自分の部屋ではなく、パブリックなスペースで勉強するというのがスタイルである。ルルサスのわっしょい広場に行くと、暑い中陰の方に机を寄せて勉強しているし、駅前の噴水広場に行くと、実は学生がものすごく居るようである。

そうした中、空き店舗も非常に増えてきたということで、コワーキングスペースの視察に4月に東京へ行ってきたが、民間経営のコワーキングスペースでは飲食店が併設されていて、この辺の支援が出来てくると若者や高齢者の居場所になり、加えて学びのまちへと発展していくのではと思った。他に、民間の会社で、自社の食堂にコワーキングスペースを併設しているところがあり、もちろん非常に厳しいセキュリティチェックを受けて外部の人が入ってくるが、そこで、自由に他の業種の人達がシェアオフィスとして使っている。交流というかシェアするという考え方がこれから地方都市にも必要になってくるのではと感じている。

事 務 局

昨年度、自由に登録すれば使える場所として、市もコワーキングスペースを創業支援センターに設置したところである。そんな中で、商工会議所から中心市街地活性化計画を作って街中が賑やかになることを考えたかどうかという提案をいただきつつあり、街中居住ということを推進していけばそういう場所も必要であろうし、元気なまちを作っていくためには必要な概念だろうなと感じている。

F 委 員

ブランド総合研究所による地域ブランド調査の認知度ランキングが、400位番台で低迷しているという状況であるが、市が取り組まれている様々な事業を見ると、一生懸命頑張られており、情報発信も出来ることは実施しているはずなのになぜだろうかと。このあたりについて、ランキングを上位に上げていくための方策というのはどのように考えられているか。

事務局 副市長が今年、新しく県から来まして、第一声がまさにその話であった。シティプロモーションが弱すぎる、もっとブランド価値を高めるよう、良い取組はどんどん発信しなければいけないということで、シティプロモーションの強化というのを命題として4月にいただいている。今、各課は様々なソーシャルネットを使いながらそれぞれに発信しており、見る人も分かりづらい状態になっているので、まずは第一段として情報統計課のホームページで集約をする。そして、次の段階として、若い方というカマスなところに届くようなツールを活用して、情報を一元化してPRしていく。当然、市広報、ホームページもあるが、3つめのツールとしてのプラットフォームを考えていかなければいけないと、今はそういう段階である。また、シティプロモーションも闇雲に広い話をしても仕方がないので、4つぐらいに絞って、これぞ防府市というものを物語にして届けていくということを取り組もうとしている。

F 委員 藍染めにフォーカスするならこれも大きなツールとして、どんどん外に発信する必要があるし、今年の10月7日に大型クルーズ客船の飛鳥Ⅱが寄港することになったが、こういうことも積極的に発信していかなければいけない。私たちも一生懸命に事業を実施している割に、いまひとつ認識されていないというか、発信力が弱いと感じているので、今言われたように、まずは市で情報を一元化管理して、情報のフォーカスの仕方を示していただきながら、それを各団体が共有しつつ発信していく部分と、独自に発信していく部分とを絡めながらやっていければ形がみえてくるのかなと感じている。

D 委員 今、デザインというものの考え方が非常に重要になってきている。多くの企業ではデザイン戦略部門ができていますが、デザインをアートと勘違いしている方がたくさんいて、デザインを日本語に訳すと問題解決ですよとよく言っている。先ほどシティプロモーションの話があったが、まさにデザイン戦略である。観光協会では、市の観光課と観光協会が別々に出していた観光情報について、この4月に一元化を行った。デザインの重要性が認識されていなかったのだから、これを作るに当たって結構議論した。今やデザイン戦略というと、どこの企業も人材を欲しがるような状態で、トップレベルの人間をいかに呼んでくるかという時代である。非常に戦略的でないといけないし、市全体の取組を網羅しておく必要があるということで、市の観光課やうめてらす、観光協会でも観光情報デザイン班を組織し、様々なツールを使ってどのように情報発信をするか検討しているので、市でバックアップしていただけると幸せるかなと感じている。

事務局 今年度、産業振興部で、商工会議所と連携しながら、デザイン力向上というアートな部分も含めて考えていこうとしており、ブランド価値を上げ、様々な問題解決をしていくためには、デザインに関する考え方も必要だと思っている。

E 委員 防府は、周防の国府があった土地柄で、地形的に山口県の中心に位置し、広い平野があり、港をはじめ多くの資源に恵まれているのに、遠慮がちな方が多いのか、本当に前に出ていないようなイメージをもつ。防府の場合は中身があるので、それをきっちり整

理して、官民が連携してもっとアピールするような体質になっていけば、絶対に結果がでるという気がする。

A 委員 今年度、子育て世代包括支援センターが開設されるとのことであるが、子育てのことで悩んでいるお母さん達はどこに相談したらいいのか迷うので、良い活動が始まっていると思った。また、2人目が生まれても上の子を保育園から出さなくてよいとか、他市に住んでいる友人達から話を聞くと、防府はすごく子育てしやすいという認識がある。

G 委員 県外に出ている娘が盆と正月に孫を連れて帰ってきた時に、公園に遊びに行くが、トイレが整備されていないとか、遊具が古いとか、なかなか良い公園がないという事を言っている。また、考えてみたら防府にはキャンプ場がなく、富海にキャンプ場があれば泳ぎながらオートキャンプができるのかなと、希望的観測で申し訳ないが、遊ぶところが充実してないなということを感じている。

C 委員 子どもが生まれて、産休明けには待つことなく子どもを保育所に預けられる状況だと伺っているが、産休や育休明けで、職場に戻ることは大変だという事を時々聞く。市の窓口には、難しいのは重々承知の上で皆さん相談に行かれると思うので、親身になってお話を聞いていただけたらと思う。

また、留守家庭児童学級の時間が延長になったという事を聞いて、私は大変嬉しく思った。私達の子どもが小学校の時には、5時までだったので、ファミリーサポートセンターを利用するなど苦労したが、その後、5時から5時半、6時と時間延長をいただき、市の方々の努力の賜物だと思う。こうした子育て支援の充実が積み重なることで、子どもをもう一人産んでも大丈夫なのかなと思う方も増えて、出生率も上がってきているのかなと感じた。ただ、先ほど若者の転出超過について説明あったが、子どもを産む世代の女性が減っていくことになるので、防府に残って、子どもを産んで、育てていただけるよう考えていかなければいけないと思った。

F 委員 横断的に情報発信を統合するセクションは、市の中でどこだろうかというのが気になっていて、総合戦略の終期である平成31年度に向け、どのようなイメージで進めていこうという方向性があれば、教えていただきたい。

事務局 現在、統合発信セクションはありません。各部、各課が独自に発信しているので、訴求力が薄くなっているのではないかと感じており、現在、庁内関係部署と連携して、組織で対応していこうという協議をしているところである。

H 委員 人口減少の一番大きな問題は、少子化と若者の県外流出だと思う。今月は求人確保促進月間ということで、県内の企業を何社か訪問したが、景気が緩やかに回復していることもあり、企業が募集しても高校生が来てくれないという状況であった。

また、大学への進学者のうち、約7割が県外に流出しており、これを食い止めるというのが大きな課題だと思っている。やはり市内の企業の魅力や特徴を積極的に伝えてい

く必要がある。最近の学生は、企業を選択する際に労働時間やワークライフバランスを重視する傾向があると聞いているので、新たに実施される「働きやすい職場づくりのための企業認定制度」による登録事業者を創出するとともに、この取組を就職希望者に積極的にPRしていくことで、市内への就職促進に繋げていただきたい。

事務局

若者に対しては、市内の企業情報を束ねた、防府がいっぱいという意味で「ハウフル」という名前の雑誌を作って、主に高校生を対象にお配りをする、市内企業の魅力を発信する取組を展開している。今、御指摘有ったように、やはり都会と地方で会社の処遇や待遇を比べたときに、明らかに地方が不利な状況は否定できないところである。先ほど富海のPRビデオを御紹介したが、その差を埋めるため、地方ならではの都会に無い豊かさがあるので、その辺を情報発信の中で訴求していければなど考えている。答えはすぐに出ないと思うが、今日も御示唆に富んだ意見を頂いているし、ここにお集まりの皆様にも色々発信していただきたい。

I 委員

今年度、防府管内においては、平成29年3月に高校生が1,183名巣立っており、そのうち大学や短大への進学率は48%、就職率は31%、専門学校へ16%となっている。ちなみに、山口県全体での進学率は43%で、約5,000人が進学しているが、そのうち約1,100人が福岡の大学、約800人が広島で、次は約350名が東京の大学へ、そして岡山、兵庫、大阪の順である。全体の7割が県外の大学となっていて、こうした山口県の進学形態は、数十年、大きな変化はない。

また、資料1のKPI「高校卒業就職者のハローワーク防府管内の就職率」について、平成28年度実績が52%で前年度から下降している。これは、進学率が3%上昇したことも影響している。この原因は昨今の大学の柔軟な入学形態にあり、進学校以外からもずいぶん大学等へ進学されているということである。県外に出る子ども達の理由は、賃金もあるが、圧倒的に将来性や福利厚生。また、子どもたちが選ぶというよりもほとんど親御さんの影響である。親御さんはじめ地域が、防府のよさを小学校、中学校のときから発信していかないといけない。市が行われている市内企業の情報発信事業は非常に良い取組である。仕事とはどのようなものなのかという、キャリア教育を考えていく。今年度は、商工会議所や市とも連携しながら、我々が高校に出向いて行って、地元定着セミナーを開催したいと思っている。

D 委員

高度経済成長時代の生き方、働き方の観点で今から子どもたちが生きていくと大変なことになる。子ども達はそこを結構敏感にキャッチ出来ているが、多くの大人はその感覚で教育をし、子どもにアドバイスしている。そういう大人をまず我々が教育する必要があるのではないかと。私はそういう役割を担いたいと思う。今は明らかにダイバーシティ、いかに多様な生き方に対応できるようなものの考え方ができるかということと、もう一つがファーストプレイスの家庭、セカンドプレイスの学校・職場、サードプレイスの地域である。ここの整備ができてくると、子ども達は高度経済成長時代の考え方ではなくて、もっと自分の価値観をもって、この街に残りたいと判断が下せる。まずは大人の意識改革をするということと、ファーストプレイス、セカンドプレイス、サードプレ



イスの整備をバランスよくやっていくことが、若者を地方都市に残す一つの手立てかな  
と  
思っている。

B 委 員 | 防府市の人口統計と就職率を見ると、産業構造が片寄っているのだと思う。企業誘致  
で業種をバランスよく引っ張ってこないと、サービス業など、そういった業種への志を  
もって東京などの都会の大学に進学した若者は、働くところが無ければ帰ってこない。  
特に有効求人倍率が高い時期というのは地方では労働力不足になるので、企業側も報酬  
等を踏まえて色々実行していかなければならないが、企業誘致をするときの業種のバラ  
ンスというものを考えていった方が、効果的ではないかと思う。

会 長 | それでは、そろそろ時間も迫ってきたので、この辺で質疑を終えたいと思う。防府市  
での総合戦略の取組は中間年度を迎えたところである。この会議での意見を踏まえて  
PDCA サイクルに沿った推進をお願いしたい。それでは会議を終了する。

閉会